

はじめに

2008年1月17日、中央教育審議会は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（答申）をとりまとめた。その中の特別支援学校の教育課程の改善の具体的事項の一つとして、ICF（International Classification of Functioning, Disability and Health、国際生活機能分類）について以下のように記述されている。

「ICFの視点について

○ ICF（国際生活機能分類）の考え方を踏まえ、自立と社会参加を目指した指導の一層の充実を図る観点から、子どもの的確な実態把握、関係機関等との効果的な連携、環境への配慮などを盛り込む。」

この記述は、特別支援教育を中心として、学校現場でICFを活用する取組が多く報告されてきていることなどを踏まえ、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会特別支援教育専門部会においてICFの活用についての議論が行われ、その結果が反映されたものである。このような取組や議論が国内で行われている一方で、WHOでは18歳未満を対象としたICF-CY（ICF Children and Youth Version、児童青年期バージョン（仮訳））の開発がワーキンググループを中心に行われてきた。

これらの動向や、本研究所がこれまでもWHO等の協力を得てICFの活用に関する研究を行ってきたことを踏まえ、ICF-CYの正式な確定に先行し、課題別研究の一つとして「ICF 児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究」（平成18～19年度）を設定し、研究に取り組んできた。

研究期間の終了にあたり、以下のような方針で研究報告書を作成し、その成果を公表することにした。

まず総論として、2007年10月にWHOから正式発表されたICF-CYを広く知らせるために、その概要をまとめ、新たに加わった項目等の一覧に日本語仮訳を添えて整理した。ICF-CY全体の翻訳も研究用資料として活用するために本研究では行っているが、正式な翻訳はICFを所管する厚生労働省が行うことになっているため、本報告書には掲載していない。今後も連絡を密に取りながら、正式な翻訳作業等に貢献していく予定ある。また、開発的研究として基本的なところを押さえるべきことが重要であるという観点から、歴史的経緯、背景と理念、学習指導要領との比較で検討した教育におけるICF-CY活用の妥当性、教育をライフステージの一部として捉えた上でのICF-CY活用の意義等を検討した。一方、WHOがICFの翻訳過程で障害のある当事者の意見を最大限取り入れる立場をとっていたことも踏まえ、本研究では、障害のある当事者や家族、支援団体等の意見をいただき、議論を重ねながら研究活動を進め、本報告書での執筆も得ている。

次に、本研究の主眼である教育におけるICF-CYの活用を検討する上で、まずこれまでの取組に見られる知見を整理した。その後、それらを具現化した活動として、研究パートナーの特別支援学校での取組と共に、これまでのほとんどICF活用実績が報告されていない小・

中学校における ICF-CY 活用の可能性について整理した。そして、現在検討されている学習指導要領と、ICF-CY との関係について整理した上で、学校現場でのこれからの取組に寄与するためにコーディングの手法と電子化ツール活用の提案に加え、WHO の国際分類に関する電子化研究の動向を紹介した。

さらに、ICF-CY の重要な役割が各分野をつなぐ共通言語としての機能であることを踏まえ、教育関連分野での活用動向について整理した。また、日本での取組を対象化し、今後の取組を探る上で重要な手がかりを得るために、ICF の前身の ICIDH（国際障害分類）の段階から障害のある人への支援に関するあらゆる分野で積極的な活用を進めてきたイタリアでの取組についても整理し、最後に WHO からの資料や本研究期間中に公表した資料を添えた。

研究期間中の 2007 年 10 月、当初予定より遅れて WHO から ICF-CY が正式に発刊された。日本語訳はこれから検討される予定である。本研究では、研究期間の前半に、この当初の予定と ICF-CY 確定との間のタイムラグを利用して、特別支援教育を中心としたこれまでの ICF の活用動向について総括する作業を行い、それをもとにしながら ICF-CY の教育施策への活用の方向性を検討してきた。研究を進めれば進めるほど、解決すべき課題が明らかになってくような状況であり、まだまだ検討の余地が多いものではあるが、ひとまず 2 年間の成果をここに公表したい。今後、さらにより良い方向に進めるよう、多くの方々から忌憚のないご意見をいただければ幸いである。

研究代表者 徳永亜希雄